

# 本と旅する

## 松江



# 平和と共生 著作の根底

怪談、幽霊話に熱中したというイメージのあるラファディオ・ハーン。実は、戦後の日本の形に関わる大きな足跡を残していた。

2015年に国宝に指定され



ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ



「小泉八雲」という名の由来となった「八雲立つ出雲…」の古歌で知られる松江市内の八重垣神社。若い参拝客が境内の「鏡の池」に浮かべた和紙に硬貨を載せて恋愛占いをしていた。



「地方の民衆が、国家神道とは無縁に素朴な気持ちで天皇を敬っていることをハーンは著作で知っていたからでしょう」と、小泉館長は推測する。

「地方の民衆が、国家神道とは無縁に素朴な気持ちで天皇を敬っていることをハーンは著作で知っていたからでしょう」と、小泉館長は推測する。

た松江城の近くに小泉八雲記念館、その隣にハーンとセツ夫妻の旧居が並んでいる。記念館の館長、小泉凡さん(55)は夫妻のひ孫。「私の名前は祖父の一族が連合国軍総司令部(GHQ)のボナー・フェリス准将にちなみ、『日米の懸け橋』と名付けたと聞いています」と一家の歴史を語ってくれた。

「鳥取の布団の話」のような悲劇も起きなかったらう。

「鳥取の布団の話」のような悲劇も起きなかったらう。

「鳥取の布団の話」のような悲劇も起きなかったらう。

「鳥取の布団の話」のような悲劇も起きなかったらう。



平和活動に取り組む小松さん。会社のロビーにはノーベル平和賞を受けたオーストリアの作家スットナーの像が置かれていた。

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ

「ハーンは松江滞在中の1899年(明治24年)8月、島根半島の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りながら、そのコ



念願の国宝に指定され、観光のけん引役と期待されている松江城

### 今回の旅のおとも



## 新編 日本の怪談

ラファディオ・ハーン(1850~1904年)の代表作を集めた角川文庫版の作品集(池田雅之編訳)。「耳無し芳一」「雪女」「鳥取の布団の話」などを収録している。「布団の話」や「水あめを買う女」などは、ハーンが1894年(明治27年)に出した日本での初の著書「知られぬ日本の面影」に収録され、26刷を重ねるベストセラーとなった。

ハーンは96年に小泉八雲の名で日本国籍を取得。松江を離れた後、現在の熊本大や東大などでも英語や英文学を教え、教育者としても高い評価を得る一方、日本での著作は十数冊を数えた。

津波(tsunami)という言葉が海外で使われるようになったのも、ハーンが採集した民話による影響。作品は子供向けのものも含めて日本で数多く出版されており、怪談集は岩波文庫からも出ている。

ハーンのひ孫で小泉八雲記念館長の小泉凡さんは島根県立大短大部教授として民俗学を教えている。

### 難読地名 アイヌ語と関係?



島根半島の東端に近い七瀬岬

松江市や隣りの出雲市には、北海道と同じく読みにくい地名が多い。例えば、十六島と書いて「つづぶるい」。「名産の岩ノリを打ち振るって乾燥させた」が語源という。恵雲出雲編なども難読地名だ。

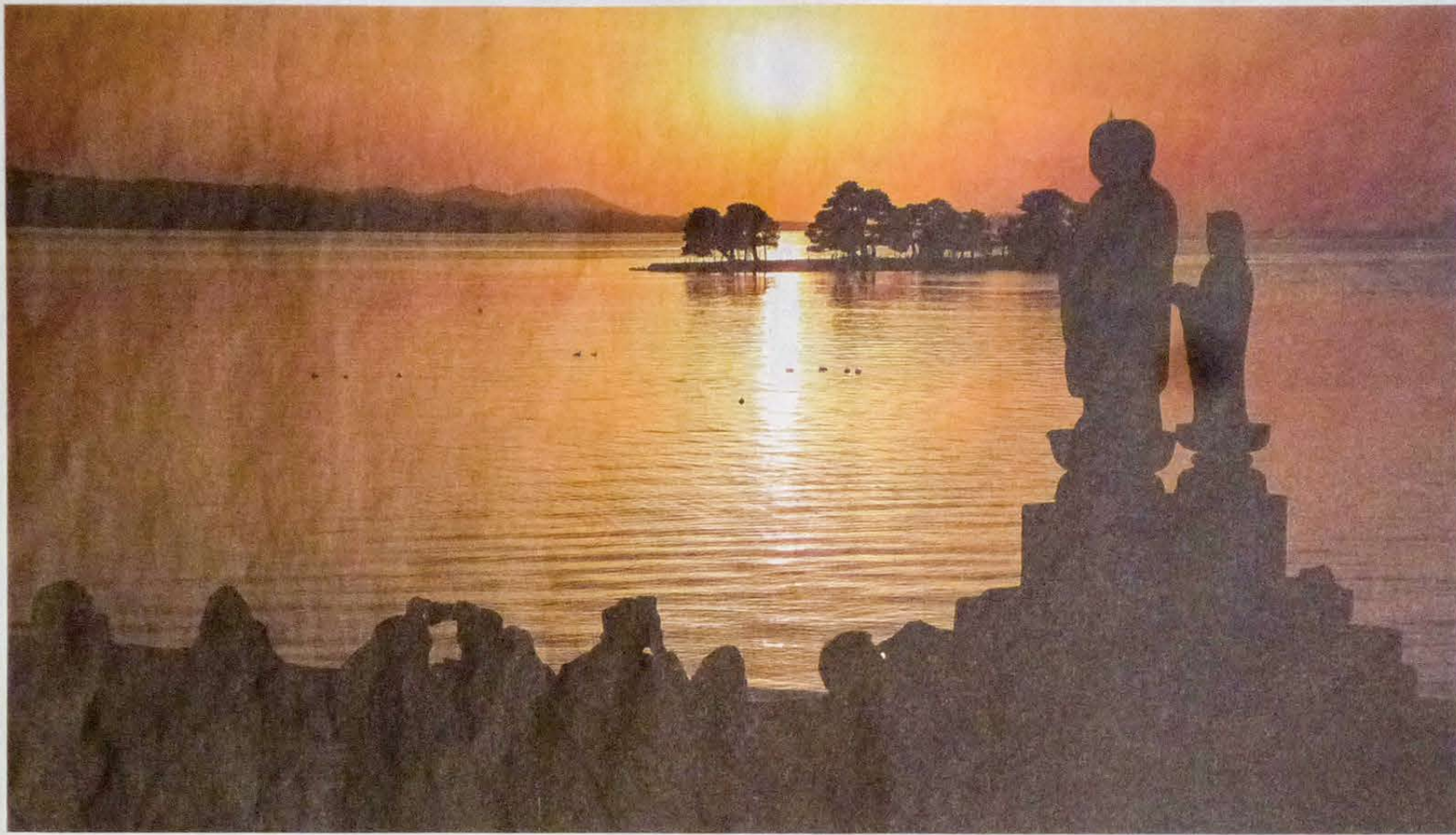
松江には七瀬、道内には忠類、サシライ岬など「るい」が付く地名があるのも共通点。十六島の海岸近くには発電用の風車がたくさん立っていた。道内の宗谷管内幌延町音類でも日本海の風を受け

て風車が回る風景が見られる。

ラファディオ・ハーン(ラファディオ・ハーン)の親友で勤務先の島根県尋常中学校(現・松江北高)の教頭だった西田十太郎は、これらの地名がアイヌ語の可能性を検討した。ハーンを介してアイヌ語研究で知られる札幌在住の宣教師ジョン・パチエラーに問い合わせている。

「つづぶるい」についてパチエラーは「湯気が多い温泉がある場所」や「ひどく踏み」というアイヌ語での解釈を回答している。





宍道湖の湖畔の仏像と小島を結んだ先に沈もつとずる太陽。「夕日スポット」に集まった人々が、あかね色の水平線に向かってシャッターを切っていた。松江市

するとすぐに、先ほどの悲しげな声が聞こえてきました。(中略)  
「あにさん、寒かろう」  
「おまえ、寒かろう」  
ここへきて初めて、客はぞつと寒気がしました。

ラフカディオ・ハーン「鳥取の布団の話」

## 怪談の宝庫に魅せられて

冬の上陸には珍しく曇一つなかつた松江の一日が暮れようとしていた。カメラを手にした人々が、撮影におすめの宍道湖畔の「夕日スポット」に集まってきた。

1890年(明治23年)、40歳で松江に来た島根県のお雇い英語教師、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)も、この場所から見る夕日を愛した。

ギリシャ生まれ、アイルランドで育ち、米国南部でアフリカ系の人々の文化に親しむなど、異文化への理解を重ねてきたハーンは、松江でもすばらしい語り部に出会う。夕日が沈み、夜になると、後に妻となる小泉セツが幽霊たちが躍動する物語を語ってくれた。

「鳥取の布団の話」は、宿屋で眠りについた客が、凍える幼い兄弟の声を覚ます。客が寝ていた布団は実は、両親を失った家賃を払えなくなった兄弟から強欲な家主が取り立てたものだった。

来日前、米国ではジャーナリストのかたわら、作家として民衆に伝わる説話を洗練された物語に仕立て上げる「再話」を目指してい

た。布団の話を知ると「あなた、私の手伝いできるんです」と驚きした。セツ夫人の「思い出の記」に、そうつぶられている。

古い城下町、松江は怪談の宝庫だ。夜な夜な大きな亀が暴れた。「月照寺の人食い亀」。亡くなった夫婦が、墓の中で産んだ赤子のためにさまよい出る大雄寺の「水あめを賣う女」。セツ夫人が語り、ハーンの手で紡がれた怪談と紀行文は英語圏で大きな人気を呼び、日本に逆輸入された。

松江では3、12月に「ゴーストツアー」が行われる。夜中に懐中電灯を手に、ハーンの怪談にまつわる寺院などを巡る趣向。NPO松江ツーリズム研究会の畑山真奈美さん(30)は「外国語のできるガイドを養成して、外国人も楽しめるようにしたい」と話す。

ハーンが松江に滞在したのは1年2カ月の短い期間だったが、マチの活性化に、今もその遺産が息づいている。

文・中尾 吉清  
写真・村本 典之  
112面に続く

# 日曜 Navi

### CONTENTS

星占い

2月20日~26日の番組表

07

味彩ファイル  
おしゃべりルーム  
プレゼント

03